

7. アンゴラ兎の産毛に関する研究

畜産部 武田 晃・山岸広三・松峰智子 担当

(1) 体各部による毛質の相違

アンゴラ兎の体各部の毛質の違いを把握しておくことは、各個体の毛質の判定上必要である。

1才半のアンゴラ雄兎5頭を用い、9月に採取した兎毛について、直線綿毛長、線毛基部の直径、綿毛基部1時間のクリンプ数、粗毛率を検査した。粗毛率は500～1000本中の百分率、他は50本の平均値で現わした。

第1表 アンゴラ兎体各部の毛質（雄5頭の平均値、カッコ内は標準誤差）

	頸上	肩	脊	腰	尻	尾	脇	腿	頸下	腹
毛長 mm	32.4 (4.51)	22.8 (2.84)	22.4 (2.44)	27.8 (1.76)	23.0 (4.67)	21.8 (5.67)	22.6 (3.37)	20.9 (3.87)	30.0 (0.40)	22.6 (6.52)
毛径 μ	10.1 (0.62)	10.2 (0.43)	10.4 (0.27)	10.1 (0.57)	10.4 (0.56)	11.7 (0.32)	11.3 (0.67)	10.4 (0.57)	11.5 (0.64)	11.3 (0.33)
巻縮度 クリンプ数	2.8 (0.54)	6.7 (0.32)	7.1 (0.15)	7.3 (0.21)	9.4 (1.01)	11.2 (0.40)	7.5 (0.33)	6.9 (0.62)	6.6 (0.25)	9.9 (0.44)
粗毛率 %	0	2.9 (0.66)	3.2 (0.39)	2.4 (0.32)	1.0 (0.32)	5.6 (0.92)	2.0 (0.36)	4.7 (2.46)	3.8 (1.45)	5.8 (0.22)

総合的な観察から、脊部の毛が最も中庸で毛質検査に用うるに適當だと考えられる。

(2) 甲状腺剤が毛量および毛質に及ぼす影響

甲状腺機能の人為的亢進が産毛に及ぼす影響を知るために、アンゴラ成雄兎にヨードカゼインを給与し、産毛量、毛長、毛径、巻縮度の変化を調べた。

アンゴラ雄兎9頭を試験群5頭、対照群4頭に分け、2月26日から4月30日まで9週間をヨードカゼイン給与期間、更にその後9週間を非給与期間とし、給与期間試験群には毎日50mgのヨードカゼインを飼料に混じて与えた。

第1表 ヨードカゼイン給与の産毛量への影響

	無処理期 2月 26日	処理期 4月 30日	無処理期 6月 2日
試 験 群	51.0 ± 4.16	50.0 ± 0.57	40.0 ± 5.51
対 照 群	59.3 ± 3.80	40.3 ± 2.19	38.0 ± 3.21
試 験 群 対 照 群 × 100	86.2	123.9	105.3

第2表 ヨードカゼイン給与の毛質への影響

	無処理期 2月 26日	処理期 4月 30日	無処理期 6月 2日
毛 長 { 試 験 群	—	54.02 ± 0.82	42.26 ± 0.79
mm { 対 照 群	—	48.88 ± 1.45	42.42 ± 2.00
毛 径 { 試 験 群	9.76 ± 0.13	10.66 ± 0.21	10.57 ± 0.66
μ { 対 照 群	9.72 ± 0.18	10.47 ± 0.07	10.63 ± 0.31
巻 縮 度 { 試 験 群	7.58 ± 0.22	6.23 ± 0.07	6.68 ± 0.30
クリンプ数 { 対 照 群	7.29 ± 0.08	6.97 ± 0.25	6.96 ± 0.31

ヨードカゼインを給与すると、飼料の摂取量は増加するが、体重は著しく減少し、一般体代謝の亢進が推察される、給与停止後は速かに体重が回復した。

産毛量の増加が認められ、また毛径は変化なかったが、クリンプ数がやや減少し、毛長が増加した。これより産毛量の増加は毛成長の促進によるものと考えられた。給与停止後の毛成長、毛質には何等の障害も認められなかったことより、適量給与は一時的産毛増加に実用化し得るものと思われる。